



「見たり、聞いたり、探ったり」No.272

通算 No.423

青木行雄

国葬、安倍元首相

2022年(令和4)9月27日

日本武道館(東京・千代田区)

参院選の選挙期間中に銃撃を受け死去した安倍晋三元首相の国葬が2022年9月27日に日本武道館にて開催された。

朝から晴れた都内は最高気温が30度を越す残暑が身にしみたがすばらしい天気だった。8年8ヶ月も日本国の為に頑張り、悲運な最期を遂げた安倍氏に「おつかれ様でした」の一言を花段にて拝み、最後の献花をそえたいと参列することにした。

午前10時45分。地下鉄東西線の九段下で下車したが、アナウンサーの声で半蔵門にお廻り下さいの誘導にしたがって半蔵門で下車し地上へ出る。すでに何列もの行列が出来ていた。関係者の指示で最後の列に並び私の行動の開始となった。



日本武道館国葬の会場風景、館内の写真と献花台の写真は同じだったようである



会場の様子を説明するテレビの画面

報道No.1

※ すでに一般向けの献花台では予定より30分早め9時30分より献花を開始、早朝から花束を携えた人たちが長い列を作っていた。

地下鉄半蔵門を出て行列は左に行き並び、又右にターンし四谷通りの大通りに出てこの通りをまた右に曲り四谷駅方面に向った。すでに同じ歩道を帰って来る行列もあり、延々と繋がっていた。献花台

のある九段下より逆方向にたんたんと、とてつもなく歩いて約1時間、四谷駅の近くまで来た時同じ歩道を折返しとなった。そしてまたまた1時間、のろのろ歩いて最初出て来た同じ半蔵門の出口の反対側を通ることになり、なんと2時間が過ぎた、かなりの疲労を感じていた、またまた係員に聞くと、あと1時間ぐらいでしょうかと言う。ここまで来たら自分の足との闘いである。出る前に門前仲町の花屋にて献花も用意したし、列を離れるわけにもいかないと覚悟する。参列者には意外と若い人達も多く驚いたが、ちゃんと喪服に黒ネクタイの人もいた。女性の方も多く、私の後ろの方は広島から新幹線で泊りがけで来たと言う2人づれ、中年の感じの良い女性の方がいた。私も黒目の服に黒ネクタイを用意したが、暑くてネクタイはつけられなかった。喪服の参列者に感動。



当日交通規制周辺、首都高の様子



参列者の人並で同じ歩道が2重になっている



延々と並ぶ参列者の列

報道No.2

※ 13時30分、安倍氏の遺骨と妻昭恵さんを乗せた車が、渋谷区の自宅を出発、日本武道館へ向かう途中に防衛省に立ち寄り会場へ。

その半蔵門前から列は行ったり、帰ったりしながら、40～50分歩いて「イギリス大使館」の裏手に出た。もう3時間近く歩いたことになる。イギリス大使館では自国の旗が半旗だった。感動。

そして14時頃、「ドドドン」と大きな大砲の音がなり響いた。多くの人が武道館の方向に向かって手を合わせた。その時、行列の中には涙する人も多く見られた。感動。



昭恵夫人と遺骨を乗せた常用車

報道No.3

※ 14時00分、安倍氏の遺骨が日本武道館に到着したのに合わせて、自衛隊が空砲を撃つ「弔砲」で弔意を示した。約20秒間隔で計19発が放たれ、周辺には大きな音が響いた。

開式の後、館内参列者が1分間の黙祷を捧げた。そして場内では安倍氏の生前の映像が約8分間流され、国会演説や東日本大震災の被災地を訪問した姿のほか、ピアノ演奏をするシーンも紹介された。その後、葬儀委員長の岸田首相らの追悼の辞が始まった。



イギリス大使館で半旗を掲げる様子



日本武道館の方向から弔砲を聞いた場所



遺骨が武道館へ到着し、昭恵夫人が式場へ向う様子



日本武道館内参列者の面々

イギリス大使館の表に出て左に行く。靖国神社の前を通り右に行けば、九段下も近いな～と思っていたら、また逆に右に列はのびていた。対面の歩道には靖国神社方面の列が繋がっていた。その内歩道を渡ってあの対面の列に加わることになる、もくもくと歩いていたがなかなか歩道を渡るところまで近づかない。皇居前の半蔵門交差点を過ぎたがまだ対面には渡れなかった。国立劇場前をすぎて最高裁判所前をすぎ三宅坂の交差点まで行きやっと歩道を渡り、皇居側の歩道を北へ向かった。この道のりの長い事、長い事、普段車にて通勤している私にとって、とても書面には表現出来ない程つらい道のりだった、これからが目的地までまだまだ遠い遠い。

報道No.4

※ 14時30分過ぎ、日本武道館では「友人代表」として自民党の菅義偉前首相が式壇に立ち、挨拶のあと秋篠宮ご夫妻、佳子さまをはじめ、皇族方が供花、続いて参列者による献花が始まる、米国のハリス副大統領らも献花した。ベトナムのフック国家主席、国際オリンピック委員会のバッハ会長らの姿も見られた。

やっと列は皇居側を北へ向かったが、この辺から列は乱れた、健脚の差が出て、若い人にはかなわない。そして、この辺から警察官の人数がだんだん増えて来た。皇居の周りには公園も多く、やっとトイレと休むイスもあった、約1時間の間に警察官に100人以上会っただろうか。この道のりの警備は東北の県が多く、秋田、岩手、青森、山形等の警察官が担当のようであった。



一般献花される人への注意書である。
かなりの警察官が見られた



警備にあたる警察の方々

北に向った行列は再び半蔵門の交差点を通り千鳥ヶ淵公園を歩き、靖国神社方向へ向った。この公園の一番北側、靖国神社に面し右に行った所に献花の祭壇が2ヶ所設けられ、かなりの警備の中献花となる。献花台らしき屋根の裏側が見えて来た時、安堵感と目的が達成した達成感で疲れを一瞬忘れていた。献花台到着前に荷物の検査があった。

8年8ヶ月もの長きにわたり国政の為に頑張られた事に対して「おつかれ様でした」と一言言いたくて



献花台の手前で、写真は近くでもきびしかった、
合間にシャッターを



写真は禁止されていたが反対側対面の道路、
車と車の間からとらせてもらった

参列しましたと手を合わせ。祭壇の大きな写真に黙礼した。思わず目頭が熱くなった。思えば何度かお目にかかった事があった。

トランプ大統領との国技館、桜を見る会、等々である。感動。

☆ 献花を終わったのが15時を過ぎていたので、約4時間、万歩計が19,950歩になっていた。よく歩いたな～と自分に感動。

報道No.5

※ 国葬に出席した小池百合子・東京都知事が都庁で記者団の取材に応じ、「花を手向けたいという（一般献花の）あの長い列。静かに皆さんが心を伝えたいと思われた、その表れがまさに長蛇になったのだと思います」と語った。

報道No.6

※ 18時20分、日本武道館での参列者全員が献花を終えた後、式壇に安置された安倍氏の遺骨は、再び昭恵さんの手に。東日本大震災の復興支援曲「花は咲く」の演奏が流れるなか、遺骨を抱えた昭恵さんがゆっくりと歩きながら、会場を後にし、式典が終了した。

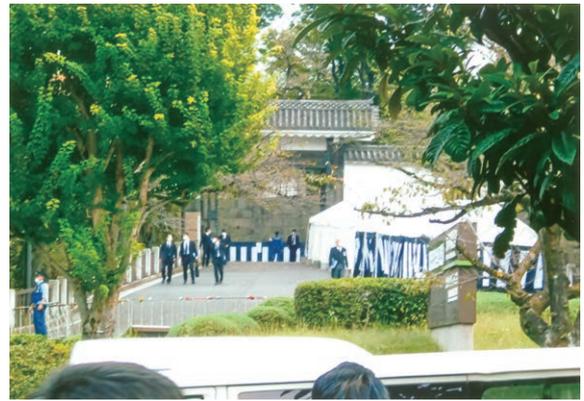
報道No.7

※ 19時05分、一般献花の最後尾に並んだ人が追悼を終える。当初は午後4時で終了予定だったが訪問者が多かったため、受付時間を延長した。

報道記事No.8

東京都文京区の高校生「敷井様」(17歳)の記事
「国葬をめぐる報道に疑問と反感」

「安倍晋三元首相の国葬に反対する報道を目にしたとき、私は疑問と反感を抱いた。」



日本武道館から出てこられる館内参列者の人達
(田安御門前)



式典が終了し、遺骨を抱えて会場を後にする昭恵夫人

長年日本を支え、常に私たち国民のために尽力して下さった安倍元首相が非業の死を遂げたあの日。しばらくは人々が悲しみ、安倍元首相の栄誉をたたえる報道が多かった。だが、少し時がたつと、手のひらを返したような報道が多くされるようになったのだ。

国葬について税金の無駄遣いだとまで言われているのを見て、日本人の心はこんなにも冷たいのかと思った。たとえどんなに嫌いであったとしても、日本と国民を第一に考え、誰よりも長く首相として貢献してきた人物に感謝し、それにふさわしい送り方をするのは、日本人として当然のことであると思う。

高校生の私でも分かることを言い争っている大人たちは何を考えているのだろう。天国から安倍元首相も残念そうに見ていると思う。」

こんな記事を見かけたので記した。感動。

最後になるが、旅は道づれと良く言います。実は私の後に並んだ広島の人2人の言葉の援助がなかったら、最後まで4時間も歩けたか自信はなかった。そして後日すばらしい手紙をいただいたので、本人に了解なくそのまま記載しました。是非最後までお読み下さい。

拝啓

天高く秋晴れの陽気が心地よい頃となりました。

青木様にはお健やかに過ごしのことと存じます。

安倍晋三元総理の国葬の際に献花までの道のりを、ご一緒させていただきました松田でございます。

真夏のように暑かったあの日から半月余りが経ちました。

ふと眼を閉じれば、昨日のように鮮明に思い出されます。

続く長蛇の列、目指す日本武道館とは逆方向の人列、青木様は汗を拭いながら炎天の中おひとりで歩いておいででした。「最後尾」と書かれたプラカードまでどれ程歩いたのでしょうか、ちょうど麴町辺りで列が乱れた頃、横入りする人達が目立ち始めました。佐藤(友人)と私は脱兎の如く走り、横入りを阻止したのですが……横断歩道で少し遅れた青木様、その間には20~30人ぐらいの人達が割り込んできました。遅れてこられた青木様に、私たちは咄嗟に「お父さん、`ここよここ、早くおいでよ、`お父さん、」と大きな声で手を振り青木様を呼び寄せました。青木様はさぞ驚かれたことでしょう、身も知らずの中年女性にいきなり「`お父さん、」と……改めてここで失礼をお詫び申し上げます。

私たちは初対面とはいえここまで一緒に頑張ってきた青木様が他の人々に割り込みされることに無性に腹が立ったのです。この時、私たちは同士だったのだと強く感じました。

麴町からも挫けそうになりながら、かなり歩きましたね。内堀通りの頃、国葬の始まる十四時を前に弔砲に耳を傾け、手を合わせる人々のお姿に言葉には尽くしがたい胸に込み上げるものを覚えました。やっと辿り着いた献花台を前にして「ああ、ここで安倍さんと本当にお別れなんだ」と思う遣る瀬ない気持ちと「ここまで歩いてきたんだ」という達成感と、相反する思いでしたが、哀しくも嬉しくもある心中、清々しい気持ちに気付きました。献花台周辺は、多種多様幅広い世代の人々が大勢見られ、中でも大変印象的だったのは男子高校生。暑い中でも制服をきちんと着用し、花一輪を携えて群れることもなくた

だひとり参加していたこと。いま時の男子高校生に対する私の偏見が、見事に打ち砕かれました。またこの度の国葬に対し、欠席する党、議員のある中で一般向けの献花台に献花する議員の方々を多く見かけたのも印象に残りました。

「日本は案外大丈夫そうです。まだまだ捨てたもんじゃないですよ」と空を見上げ、心の中で安倍さんにご報告いたしました。

とても貴重な体験、とても有意義な時間を共有できましたことを心よりお礼申し上げます。

最後に青木様、「安倍元総理国葬・献花の儀に際し距離十数km、四時間余、気温三十度を超える暑さの中、途中で脱落されることもなく、無事供花されました。

よってここに敬意を表します。

お疲れ様でした。

秋も染まりゆくこの時期、ご健康に留意され、ますますご活躍されますよう心よりお祈り申し上げます。かしこ。

令和四年十月十二日

松田真美子(お名前は仮名にさせていただきました)

青木行雄 様

このような達筆、名文、精細な手紙をいただき、情景がふたたび目に浮かんで来ました。大感動。

天気にも恵まれ、素晴らしい出会いと体験。感謝と感動、最後のお別れではあったが、今年1番の好日だった。

私の体験記を最後までお読みいただきありがとうございました。感動。

2022年11月1日 記

参考資料

日経新聞、朝日新聞、NHK、日本テレビ